

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年は、日記指導を定期的に取り入れたことで、普段の授業でも、考えを表現することに自分から取り組むことができる児童が増えた。
- ・第4学年は、「読むこと」の領域が前年度より目標値に近付いた。読書の推進を継続的に行ったことや、文章を叙述に即して読む指導をしたことが、成果につながった。
- ・第6学年は、少人数では自分の考えを伝え話し合うことができた。

(2) 課題

- ・第2学年は、読書の時間を確保したり、授業の最初の時間に詩の暗唱や言葉遊びを取り入れたりすることで、新しい言葉を学び、活用できる語彙を増やしていく必要がある。
- ・第4学年は、目標値に対して下回る結果となった項目が多くあった。特に、「文章を書くこと」について、継続的な指導が必要である。
- ・高学年は、目標値に対して下回る項目が多くあった。特に言葉の学習や説明文の読み取り、文章を書く項目において、継続的な指導が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対して▼		
第5学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第4学年時)	
第6学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第5学年時)	目標値に対して▼ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言語についての知識・理解について、漢字やローマ字を読むことについて目標値のほぼ平均値をとることができたが、漢字を書くことにおいて目標値を下回った。	思考・判断・表現について、相手や目的を意識して文章を書くことにおいて、目標値を下回った。	大田区学習効果測定が、目標値より下回る項目が多いことを鑑み、児童が自分の考えをもったり、まとめたりするような課題や、学んだことを生活の中で行かせるような経験が必要である。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
修飾語など言語についての	話の内容を聞き取ったり、物	少人数での話し合いでは、活

知識・理解については目標値の平均を下回った。(5年) 漢字の読みについては、目標値を上回ったが、敬語や情報と情報の関係理解など言葉の学習については、目標値を下回った。(6年)	語の内容を読み取ったりすることは目標値のほぼ平均であった(5年) 説明文の読み取りにおいて目標値を下回った。(6年) 調べたことをもとに文章を書いたり、自分の考えやその理由を書くことは、目標値を大きく下回った。(5・6年)	発に自分の考えを話すことができ、主体的に取り組んでいる様子が見られた。漢字テストに意欲的に取り組む児童は限られている。読書は好きな児童が多いが進んで読んでいる児童は少ない。
--	---	--

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・フラッシュカードなどを用いて、平仮名、片仮名の促音・長音・拗音などの決まりを身に付けさせる。 ・既習の平仮名や漢字を、文章の中で使う習慣を付けさせることで、定着を図る。 ・行事や学習活動に合わせた作文指導を継続的に取り組ませ、目的を明確にして書く活動を行う。 ・初めて取り組む活動の際には、教員や児童のお手本を示すことで、自分の課題に生かすことができるようにする。	・分からない言葉の意味を調べたり、大事な箇所に下線を引いたりすることを通して、文章の内容の大体を捉えることができるようにする。 ・話型や文型を示すことで、自分の考えを整理して表現できるようにする。 ・掲示物やデジタル教材などを活用し、適切な話し方、聞き方を提示することで、話し合いを円滑に進めることができるようにする。	・朝読書の継続や週1回の図書の時間の確保、専門員やボランティアによる読み聞かせを通して、本に親しむ機会を増やす。 ・全体で発表する前に、ペアやグループで話す時間を設け、自信をもって自分の考えを発表できるようにする。 ・音読発表会などを効果的に取り入れ、表現する楽しさを味わえる学習活動を行う。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・主語と述語の関係の理解を深めるために、小単元の学習以外でも授業始めの5分間などを活用し、継続的に繰り返し指導する。 ・既習の漢字について、書き取り以外にもタブレットを活用した学習なども取り入れる。	・場面の移り変わりに注意し、登場人物の心情の変化など、叙述に即して読むよう引き続き指導する。 ・相手意識、目的意識をもたせ、自分の考えを表現することに必然性のある場を設定する。 ・表現したものを最終的に表現するだけでなく、その過程においても友達と表現	・朝読書の継続や週1回の図書の時間、専門員による読み聞かせ、ブックトーク等を通して、本に親しむ機会を引き続き増やしていく。 ・単元のまとめとして、学習発表会など、学んだことを表現するような場を設ける。 ・行事や学習活動に合わせた作文指導を取り入れたり、短い文で自分の考えを書いたりするな

	し合えるような授業展開をする。 ・自分の考えを表現する方法や形式を繰り返し指導する。	ど継続的に書く活動を行う。
--	---	---------------

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 主語、述語、修飾語、敬語など、小単元の学習以外でも読むことや作文などの中で継続的に繰り返し指導する。 - 漢字ドリルなどを活用し、漢字のミニテストを繰り返すなどして読み書きの定着を図ったり、既習の漢字を文章の中で使う習慣を付けたりする。 - 同一の意味を様々な言葉で表現する活動を行う。 「書くって楽しいね」を活用し、文章の書き方を理解させる。	- 自分の考え、事実、根拠を説明したりする活動を授業の始めの時間に行う。また、指定された文字数で書いたり、段落構成を考えて書いたりする経験を増やす。 - 説明文を読み取る際には、段落ごとの内容の読み取りや段落相互の関係を考える学習を丁寧に行う。 - 他教科でも資料を読み取る学習を丁寧に行う。また、資料を基に自分の考えを持ち伝える活動に取り組む。	- 朝読書の継続や週1回の図書の時間、専門員による読み聞かせ、ブックトーク等を通して、本に親しむ機会を増やす。 - 俳句や短歌の暗唱、百人一首などを通して、言葉への興味・関心を高める。 - ICTを活用して、興味・関心を高める学習活動を行う。

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自分の考えや答えを書いたり説明したりする活動を多く取り入れたため、大田区学習効果測定において4・5学年の短答・記述の正答率が上がった。
- ・授業の場でタブレットドリルや算数アプリを活用したことにより、基礎・基本の計算力が上がった学年があった。
- ・習熟度別グループ授業において、個の能力に応じた学習を行うことにより、一人一人の「分かった」「できた」経験を増やすことができた。

(2) 課題

- ・3～5学年において、基礎・基本の計算の習得に課題がある児童がいる。特に4学年のわり算、6学年の小数の計算の正答率が極めて低かったため、個別指導や、繰り返しの学習に重点を置き、当該学年までの学習内容が定着するよう継続的な指導が必要である。
- ・6学年において図形の領域に課題が見られるため、ICTを活用したり具体物を操作したりする中で理解を深める活動を設ける。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対して▼		
第5学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第4学年時)	
第6学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第5学年時)	目標値に対して▼ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第4学年においては、目標値に対し同程度の評価であった。 ・第4学年においては、「あまりのあるわり算の文章問題」「円と球」「時刻と時間」の問題について課題がある。	・第4学年においては、目標値に対し同程度の評価であった。 ・第4学年においては、「余りを切り上げて処理する問題」ができ、その理由を説明する問題について課題があるが、その他については概ね目標値に達している。	・第4学年においては、「ある時刻から一定時間前の時刻を求める」問題について課題があるが、作図の問題については目標値に達している。数学的に表現・処理したことよさに気づき、生活や学習に活用しようとする態度が低い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・第5学年においては目標値と同程度で、第6学年においては大きく下回った評価であった。 ・第5学年において、概数、面積、図を使って割合を求めるための立式を考える問題は目標値を上回っていたが、わり算や四則の混じった式の計算順序の理解が低い。 ・第6学年において、公約数や分数の約分、小数同士のかけ算わり算、割合の問題に大きな課題がある。	・第5学年においては目標値と同程度で、第6学年においては大きく下回った評価であった。 ・第5学年において、分数の大小比較、複合図形の面積を求める問題は目標値を上回っていたが、三角定規を組み合わせた角の大きさの問題では目標値を大きく下回った。 ・第6学年において、多角形の内角の和の求め方や円グラフ・帯グラフの読み取り、体積の問題が目標値を大きく下回った。	・作図問題について、第5学年の平行四辺形、第6学年の合同な三角形の作図は目標値を大きく下回った。 ・計算や作図など、粘り強く取り組んだり、数学的に表現・処理したことのよさに気付き、生活や学習に活用しようとしたりする態度が低い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タブレット端末と紙を併用し、毎回の学習内容の習得を確実にする。 ・デジタル教科書、動画等ICTの活用と共に絵図やブロックといった具体物を活用した授業を展開し、視覚的に分かりやすい授業を行う。	・班やペア活動で自分の考えを表現し、説明する機会を意図的に設け協同学習を行う。（可能な範囲で振り返りコメントのできる機会を作る）	・習熟度別学習を行い、児童が「分かった」「できる」「楽しい」と実感できる授業を行う。 ・ICTを活用した学習を多く取り入れ、画像や動画を使用し児童の興味・関心を高める。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タブレット端末と紙を併用し、毎回の学習内容の習得を確実にする。 ・問題や場面に対するイメージを掴ませるため、ICTの活用と共に絵図やブロックといった具体物を活用した授業を展開し、視覚的に分かりやすい授業を行う。	・班やペア活動で自分の考えを表現し、説明する機会を意図的に設け協同学習を行う。（可能な範囲で振り返りコメントのできる機会を作る） ・児童の多様な考えをアプリ等を活用し、クラス全体で考えの共有を行う。 ・板書を基に、自分の考えを整理し工夫したノートづく	・数量や図形に進んで関わり、生活や学習に活用しようとする態度を養う。 ・習熟度別学習を行い、児童が「分かった」「できる」「楽しい」と実感できる授業を行う。

	りを行うとともに、他者とノートを見せ合う協同学習を行う。	
--	------------------------------	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・タブレット端末と紙を併用し、毎回の学習内容の習得を確実にする。 ・「数と計算」の領域では、四則計算の順序やわり算の筆算の仕方、約数や割合の学習を定着させる。 ・授業の帯でタブレットドリルや算数アプリを活用し、基礎・基本の計算力の向上に努める。	・班やペア活動で自分の考えを表現し、説明する機会を意図的に設け協同学習を行う。 (可能な範囲で振り返りコメントのできる機会を作る) ・自分の考えを式や図、言葉などで表現できるようにする。 ・「変化と関係」「データの活用」領域では、伴って変わる関係を式にしたり、読み取ったデータについて説明したりする活動を多く取り入れる。	・習熟度別学習を行い、児童が「分かった」「できる」「楽しい」と実感できる授業を行う。 ・児童同士でミニ先生役として教え合う場面を設け、お互いに力をのばしていける環境づくりをする。 ・粘り強く課題に取り組む態度や数量や図形に進んで関わり、生活や学習に活用する態度を養うため、実生活につながる問題を取り入れる。

(様式例)

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ICTの活用により、植物、昆虫、魚など「生命」領域では観察に力を入れてきた結果、知識・理解での定着がはかれた。
- ・観察・実験の前に観察・実験器具や用具の使い方を示したり確認したりしたことによって、正しい使い方や扱い方を守って観察・実験することができた。
- ・理科室前の廊下を活用して、現在進行している学習に関わるものを展示したり、掲示したりしたことで全学年の多くの児童が理科への興味関心をもつようになった。

(2) 課題

- ・「知識・技能」について、4年生では「エネルギー」「粒子」「生命」の領域に対して、5年生では、5年生では「粒子」の領域に対して、6年生では「エネルギー」「粒子」の領域に対して基礎的な知識を十分に身に付けさせることができていない。実験は覚えていても問題を解くことに至っていない現状がある。学校全体としては「粒子」分野の知識・理解の定着を図る必要がある。
- ・「思考・判断・表現」について、理科学的な事物・現象を科学的に分析する方法を考えたり、根拠を示して表現したりすることに課題がある。観察や実験の前に予想を立てたり、結果から考察をしたりする時間を十分にとる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対して▼		
第5学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第4学年時)	
第6学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第5学年時)	目標値に対して▼ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自然事象に対する概念や性質・規則性の理解を深めるために、体験的活動を多く取り入れた学習は定着率がやや高くなっている。	・問題に対して既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力が低い。また、実験の結果からどのようなことが言えるのかを言語化、文章化する機会が	・科学的な事象と実生活が結びついていないことが考えられる。結びついていないことを体験的に学習しているので、主体的に課題に取り組む姿勢が作れず興味関心の

	少ないことが考えられる。	低い児童が多くなっていると考えられる。
--	--------------	---------------------

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 科学的な問題解決を行うために必要な観察・実験等の基本的な技能が定着できていない。 - 科学的な法則などを知識として定着していない。 - 自然事象に対する概念や性質・規則性の理解を深めるための、体験的活動が足りないが、映像資料等を活用し理解していると言える。	- 物質・エネルギーにおいて例えば「ふりこの法則」などで実験結果を表やグラフに整理する活動が不足していることが考えられる。 - 自然現象の変化や働きについて、より妥当な考えを見出す力を高めるために、自分の言葉で考察をまとめる機会をより増やす必要性が感じられる。また、考える際には、考える視点を与える必要がある。	学習したことを身近な経験や生活に結び付けて考え・予想するなど、興味をもたせる学習の工夫が必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 実験器具の名前を言わせるなどの活動をしてから対象や目的に応じて観察・実験器具を適切に操作することができるよう、目的を共有してから操作方法を確認させる。 - 飼育・栽培や観察実験では、具体的に着目する視点(葉の数や形等)を与え、予想や仮説などを基に検証させる。 - 天気や月、星の動きなど身近に体験しにくい学習では、デジタル教材を授業に取り入れるなど、視覚支援を充実させる。 - 学習した理科用語を授業中に振り返る機会を意図的に取り入れ、学習内容の理解と知識の定着を深める。 - 日常的に教科書の「確かめよう」のページを活用し小テストを行い、知識の定着を図る。	- 問題解決の資質・能力を向上させるために、「①課題を知る②予想の立て方を知る③方法を知る④事実を書く⑤結果から考えたことを書く」といった問題解決の流れに沿って板書を行う。 - 予想を立て、その根拠を自分の経験や既習学習から用いて言葉で説明したり書いたりする機会を増やす。 - 実験などの結果を記録する際、毎回同じ視点で比べるように促し、関係性や違いに気付かせる。 - 実験などの結果から考察ができるように、初めのうちは書き方の例を示したり、穴埋めにしたりするなどの支援をする。 - 実験結果を比較したり、要因を抽出して法則性を見出すこ	- 主体的に学習に取り組ませるため、児童の体験から結び付けて問題をつくっていく。 - 事象に十分に関わらせ、「なぜ」を大切にしながら学んだことと生活との関わりを振り返る時間を設け、学習内容を深く理解したり、新しい問題を見付けようとしたりする態度を育てる。 - デジタル教材を授業に取り入れるなど、視覚支援を充実させ活動しやすい環境を作る。

	とが大切である。	
--	----------	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・資料を活用する学習を多く取り入れ、具体的に注目する視点を与えることで資料からいえることを考える力を高める。 ・天気や月、星の動きなど身近に体験できない学習では、デジタル教材を授業に取り入れるなど、視覚支援を引き続き充実させる。 ・実験器具に関して、やり方を教師が手本（動画を事前に準備する等）を示して確認させることで、正しい実験の仕方や実験器具の扱い方を身に付けさせる。 ・実験の後や単元のまとめの時間に、実験結果や知識を活用・適用して解く問題を設定して、知識の定着を図る。 ・日常的に教科書の「確かめよう」のページを活用し小テスト、プリントを行い、知識の定着を図る。	・問題解決の資質・能力を高めるために、課題を見つけるために①比較できる事象の提示から②問題を発見し、それに対して予想・仮説を立てる④理科室にあるもので実験方法を立案し、⑤実験をして⑥結果を出して、実験結果に対して⑦考察を書き、学級として一つの⑧結論を出すようにする。 ・考察の高学年校内話型を示し、だれでもそれに沿って書けるようにする。 ・単元を通してペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、話し合いを通して物事を多面的に考え、妥当性のある結論を導き出せるようにする。 ・グラフや表の読み取りに関して、教科横断的な力を活用し、適切に読み取り、そこからどのような事象になっているかを考えられるようにする。	・導入時に演示実験や映像資料を取り入れたり、児童が調べてみたいと思うような課題提示をしたりすることで、理科に対する興味・関心を高めていく。 ・体験活動から問題を作っていく、体験できない事象については、視聴覚資料やICTを活用して意欲を高める。 ・学んだことを日常とつなげたり生かしたりすることができるよう、実験や観察の結果からどんなことが身近なことに使われているか考えたり、話し合ったりする機会を設ける。 ・理科に関する掲示物を理科室前に掲示し学習環境を整える。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・地図や地球儀、具体物やI C Tを活用した授業を展開したことで児童の興味・関心を高めることができた。基本の言葉を正しく覚えることにつながった。
- ・タブレットを活用し、こどもたちの考えを共有することができた。
- ・デジタル教科書を利用したことで、写真からだけでなく動画からも学ぶことができた。

(2) 課題

- ・地図記号や都道府県の位置など、覚えたことを使って考える経験が少ない。教科横断的に学んだことを生かしていくことが必要である。
- ・記述式で、問題に対する自分の考えや選択した理由を説明する力を伸ばすことに課題がある。知識として身に付いていることを、問題に合わせて記述する練習を行っていく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	目標値に対して▼		
第5学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第4学年時)	
第6学年	目標値に対して▼	目標値に対して▼ (第5学年時)	目標値に対して▼ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・方位や地図記号など、基本的な知識の定着と、複数の資料を組み合わせる考える力を身に付けていく必要がある。 ・消防署の役割や火災発生時に何番に電話すればよいかなどについて、より理解していく必要がある。 ・言葉を覚えても、その役割や意味が具体的に理解されていない。それを整理してまとめる活動を取り入れる必要がある。	・資料に基づき与えられた条件から読み取る力が弱い。問題文を読んで、分かったことに対して、自分の思考を深める問いを授業に取り入れていく必要がある。 ・資料から必要なことを読み取る力が弱い。図や年表から判断する活動を増やす必要がある。	・社会に対する事柄を自ら調べるなど、さらに学びに向かう姿勢を育てる必要がある。地域にある身近な教材を授業で扱うなど、意欲的に活動できるような工夫を行う必要がある。 ・自分の考えを書かせたり発表させたりするなど、タブレットも用いて問題に対して関心をもてるような授業展開をする。振り返りも行い、相互にコメントを付けていくことも有効だと思われる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・社会的な用語、都道府県や国の名前などと地域や地方の特色などを合わせて覚えるようにし、基本的な知識を定着させる必要がある。 ・複数の資料を関連付けて、社会的な事象を正確に理解する力を身に付けていく必要がある。 ・用語や地形、方位など基本的な知識を定着させる必要がある。	・自らの考えを文章で表現することに課題がある。そのため、自分の考えを書かせたり、お互いに伝えあったりする活動が必要である。 ・複数の資料を関連付けて考察したり、資料から必要なことを読み取ったりすることが弱い。複数の図や年表から「どうしてそうなるのか」と考える活動を増やす必要がある。	・社会に対する興味・関心を高める必要がある。ゲストティーチャーや体験的・疑似体験的な活動を積極的に取り入れた授業の工夫を行う必要がある。 ・タブレットを使って問題に取り組む時間を作るなど、取り組みやすい活動を増やす必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・3年生は地図記号、地図帳の基本的な使い方をしっかり教える。生活経験と結び付けていく。 ・4年生は47都道府県の名称と位置を理解する。都道府県名も漢字（国語科配当）で書けるように教える。地図を積極的に活用し、八方位を含めた見方の活動を増やしていく。 ・算数の棒グラフや折れ線グラフの学習と関連させて、情報を整理して資料やグラフから読み取る力を身に付ける。	・毎時間の授業の最後5分間は、学習のまとめを自分の力でノートやタブレットに書けるような活動を取り入れる。 ・単元を通してペア学習やグループ学習で、お互いの考えを伝え合う活動を積極的に取り入れる。タブレットも活用し、考えを共有しやすくしていく。 ・資料から読み取る際は、そのどこを見ればよいのか、ポイントを示していく。 ・「なぜ?」「どうして?」と理由を考えさせる問いを積極的に取り入れていく。	・社会科の興味・関心を高めるために、身近な教材を授業の中に取り入れていく。 ・社会科見学だけでなく、近隣の施設や工場、スーパーマーケットなどにも見学に行き、体験的な活動をたくさん取り入れていく。 ・地図記号や都道府県、タブレットを用いたクイズ、ミニテストを取り入れ、楽しく興味をもてるような授業の工夫をする。 ・日常生活から、学習に関連する問題を取り上げて使うようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5年生は都道府県名・世界の国名と国旗・世界の中での日本の位置など、6年生は歴史上の人物についても定着できるように、背景・理由・影響とセットで理解させるようにする。 ・単元で大切な言葉を穴埋め問題にするなど、ワークシートやタブレットを活用して楽しく覚えられるようにする。 ・算数の学習との相互性を生かし、複数の資料から比較する。関連性を捉え正しく読み取る練習を行う。	・毎時間、学習のまとめを自分の力で書く活動を取り入れる。その際、キーワードや根拠を明らかにして自分の考えをノートやタブレットに書くようにする。また、「どちらが妥当か?」「どうすべきか?」などの判断を要する課題を設定していく。 ・単元を通してペア学習やグループ学習で、お互いの意見や考えを伝え合わせる活動を積極的に取り入れる。タブレットや文章、口頭など多様な表現方法を経験させる。 ・新聞やポスターなどにまとめる際は、書くべき内容(テーマ)を必ず教師から示してまとめるようにする。	・世界の国や歴史上の人物についてのクイズやミニテストを取り入れ、楽しく覚えてより興味をもてるような授業の工夫をする。 ・自分の問いを元に探究活動を行っていく。 ・デジタル教科書を授業に取り入れ映像による資料を多く提示し、興味関心を高めていく。 ・社会科見学などで工場見学をしていく。また、事前に関連する動画や具体物を用いて、関心を高める。 ・政治や国際社会の学習では、時事問題などを取り上げ意見を出させるなどし、関心を高める。実生活とのつながりを意識させる。

令和7年度 外国語活動・外国語科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・活字体の大文字・小文字を正しく書くことは、概ねできている。
- ・短い物語を聞き、話の概要を捉えることは、概ねできている。
- ・好きな教科や苦手な教科など身近な事柄についての対話を聞き、その内容を理解することは、概ねできている。

(2) 課題

- ・アルファベットの聞き取りや英単語の読み書きに課題がある。
- ・既習した英単語や表現を活用して英文を書くことについて課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年			
第5学年			
第6学年	目標値に対して△		

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○「日時・曜日」、「数字」などの身近な英単語を含めた歌を繰り返し歌ったり、英単語や会話の表現などを繰り返し発声したりすることで、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむことができた。	○友達同士で英語を用いたコミュニケーション活動では、自己紹介や自分の考えを伝えることができた。 ○「好きなもの」や「好きな時刻の理由」などの学習では、既習事項だけでなく、自分の伝えたい英単語を調べ、伝えようとする姿が見られた。	○様々な英語表現に対し、慣れ親しもうと、すすんで発音練習やコミュニケーション活動に取り組もうとする姿が見られる。 ●発音を聞き取ることが難しく、英語を用いてのコミュニケーション活動に自信をもって取り組めない児童もいた。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○概ねアルファベットの形を正しく捉え、読んだり、書いたりすることができている。 ●アルファベットの聞き取りに課題がある。	○簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることは、概ねできている。 ●例文を参考に、文を作成することに苦手意識をもっている児童がいる。	○ゲームや遊び等を通じて、友達と英語でのやり取りをする活動では、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・日常生活の中で聞いたことのある英単語を使い、楽しく英語に慣れ親しむことができるような活動を積極的に取り入れていく。 ・既習事項をフラッシュカードやゲームを通して、復習する。	・今後も英語を話したいという気持ちを深めるために、児童のよい点を褒め、即時評価を行う。 ・学んだ英単語の定着を目標に、コミュニケーション活動を多く取り入れたたり、習得した英単語を振り返る時間を設けたりする。	・英語に親しむことができるように、歌やゲーム活動を取り入れるなど、楽しく学習できる雰囲気をつくっていく。 ・児童が正しく発音できるように、ゆっくり発音したり、個別に発音の仕方を確認したりする。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・繰り返しの発音練習やチャンツ、カードを使った活動を通して、英単語を覚えられるようにする。 ・定期的に、英単語のテストや口頭での確認など既習事項を復習することで、児童の定着度を確認する。	・新しい英単語や表現を学ぶ際には、イラストと英単語を結び付けて判断したり、アクセントを確認したりして、定着を図る。 ・実際の場を想定して、友達と英語でのコミュニケーション活動をする機会を設ける。 ・既習事項の確実な定着のため、授業の始めでは、前回学んだ英単語や表現を復習する。	・ゆっくり、繰り返し発音練習することやフラッシュカードを用いた活動を重点的に取り組む。正しい発音を身に付けさせ、自信を深めて活動に参加できるようにする。 ・楽しい雰囲気の中で英語に親しむことができるように、歌やゲームなどの活動を取り入れていく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書く領域については、なぞり書き、写し書きなどスモールステップで技能を定着させる。 ・簡単な語句や基本的な表現について、動画やイラストなどの視覚的な情報を用いた学習を行う。	・簡単な語句・表現を指導する際には、実生活での場面を想定させることで、適切な使い方を理解させる。 ・書くことに対する苦手意識を軽減させるために、自分の身近な人の紹介など取り組みやすいテーマで文章を書く学習を行う。	・歌やゲームも導入して、外国語への意欲・関心を高めるとともに、友達と英語でのやり取りをする活動を多く設ける。

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・興味関心が高く、意欲的に取り組む姿勢が多く見られる。
- ・器楽の技能はスモールステップかつ反復学習により、着実に技能を身に付けることができている。

(2) 課題

- ・学んだ知識や技能を生かすことがまだ十分ではない。
- ・感じ取ったことと聴き取ったことを結び付けて考える力が十分ではない。

2 分析（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・拍にのってリズムを取ることができるようになってきた。 ・音の高さを感じ取って歌うことができている。 ・鍵盤ハーモニカを拍にのって演奏する技能に課題がある。	・身体を使って音楽の様子を表し、感じ取ったことを適切な言葉で表す力に課題がある。	・興味・関心が高く、意欲的に楽しく音楽活動に取り組む姿が多く見られる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・互いの歌声を聴きながら、自然で無理のない発声で歌うことができている。 ・吹奏楽器の演奏においては、指遣いに気を付けて、タンギングをして美しい音色で演奏する技能の定着が見られる。 ・第3学年から始まる階名に親しむ学習に意欲的に取り組んでいる。	・感じ取ったことが音楽の要素の何に基づいているのか考える力に課題が見られる。	・興味関心が高く、発表の場面においても意欲的に取り組む姿が多く見られる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・互いの声を聴き合って高さの異なる声部を重ねて歌う技能に課題がある。	・感じ取ったことが音楽の要素の何に基づいているのか考える力に課題が見られる。	・歌唱や器楽の学習においては概ねの児童が意欲的に取り組んでいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・音や音楽に合わせて身体を動かす活動を多く展開し、拍感を身に付けさせる。 ・鍵盤ハーモニカの演奏技能はスモールステップで習得させる。	・音楽の様子を表す言葉の揭示を充実させ、児童自ら判断して適切な言葉を選べるようにする。	・身体を伴った活動や児童同士の交流の機会を多く設定し、様々な音楽に親しみ、音楽への興味関心を高める。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・リコーダーの息遣いやタンギング等の基本的な技能について、必要感をもたせて習得させる。 ・階名の学習等、楽典的な学習を体験的に習得させる。	・感じ取ったことが音楽の要素の何に基づいているのか、揭示物と関連付けし、視覚的・身体的に捉えさせる。	・読譜に関する学習を体験的に習得させ、児童同士の交流の機会を多く設定し、様々な音楽に親しみ興味関心を高める。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・スモールステップでハーモニーをつくる学習を積み重ねる。	・感じ取ったことが音楽の要素の何に基づいているのか、揭示物と関連付けし、視覚的・身体的に捉えさせる。	・身近な物事や既習事項と関連付けて学習に対する必要感をもたせ、音楽への興味関心を高める。

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・わかりやすく取り組みやすい活動を提示し、めあてを明確にもたせて表現に取り組ませることにより、学習に向かう態度が向上した。
- ・ICT機器を活用しながら児童の目の前で「やってみせる」ことを確実にを行い、材料や用具の特性への理解度を高めることができた。
- ・制作途中の児童作品や各国の美術作品を都度紹介することによって鑑賞の機会を増やし、造形的なよさに気付かせ、自分の見方や感じ方を広げさせることができた。

(2) 課題

- ・児童の学びに対する意欲の個人差が大きく、関心をもって主体的に学ぶことができない児童もいる。
- ・用具の正しい扱い方や作品制作の手順について、理解するのに時間がかかったり理解が難しかったりする児童がいる。
- ・表したいことを見付けたり表し方を工夫したりすることが苦手な児童がいる。

2 観点別分析

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料や道具の特性を理解し、手や体全体の感覚などを働かせて表そうとしている。 ・表現の技能には個人差があり、手や体全体の感覚の継続的な育成が必要であると考ええる。	・材料の形や色などから造形的なよさを思いつき、どのように表すかを考えながら学習している。 ・好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら表し方を工夫している。	・鑑賞の活動では、ほとんどの児童が主体的に取り組んでいる。 ・表現の活動では、どの児童も学びに対する意欲が一定以上あり、表現を楽しんでいる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・材料や道具を適切に扱い、前学年までの経験を生かしながら手や体全体を働かせて表そうとする児童が多い。 ・表現の技能は個人差が大きく、手や体全体の感覚の継続的な育成が必要であると考ええる。	・感じたこと、想像したこと、見たことから表したいことを見付け、どのように表すかを考えながら学習している児童が多いが、考え工夫する力が不十分な児童もいる。 ・形や色、材料などを生かしながら、表し方を工夫している。	・鑑賞の活動では、ほとんどの児童が主体的に取り組んでいる。 ・表現の活動では、学びに対する意欲に個人差がある。気持ちが散漫になり、一つの表現に集中することが難しい児童もいる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・表現方法に合わせて材料や道具を選ぶことができる児童が多い。前学年までの経験や技能を生かして表そうとする児童もみられる。 ・表現の技能は個人差が大きい。活動の経験を増やし、表す力を継続的に育成する必要があると考える。	・感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから表したいことを積極的に見付けようとする児童もいるが、発想や構想の力は個人差が大きい。「美しい!」「表したい!」と感じる経験を増やし、表現力を高めたいと考える。	・学習意欲の個人差がある。高い意欲で自分の表現に主体的に取り組む児童がいる一方で、気持ちが散漫になり、学習に集中することが難しい児童もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT機器を活用しながら児童の目の前で「やってみせる」ことを確実にし、材料や用具の特性を理解させる。 ・表現活動の時間を確保し、手や体全体の感覚の育成に努める。	・制作途中の作品や各国の美術作品を都度紹介することによって鑑賞の機会を増やす。そのことにより表現の工夫に気付かせ、自分の見方や感じ方を広げさせる。	・わかりやすく取り組みやすい活動を提示し、めあてを明確にもたせて表現に取り組ませる。 ・それぞれの児童が興味をもっていることを学習内容と結び付け、学習意欲を高める。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ICT機器を活用しながら児童の目の前で「やってみせる」ことを確実にし、材料や用具の適切な扱い方を理解させる。 ・表現活動の時間を確保し、手や体全体の感覚の育成に努める。	・制作途中の作品や各国の美術作品を都度紹介することによって鑑賞の機会を増やす。そのことにより造形的なよさに気付かせ、自分の見方や感じ方を広げさせる。	・わかりやすく取り組みやすい活動を提示し、めあてを明確にもたせて表現に取り組ませる。 ・それぞれの児童が興味をもっていることを学習内容と結び付け、意欲を高める。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・前学年までの経験を振り返らせ、自分のもつ経験や技能が生かせることを感じさせる。 ・ICT機器を活用しながら児童の目の前で「やってみせる」ことを確実にし、材料や用具の適切な扱い方を理解させる。 ・表現活動の時間を確保し、手や体全体の感覚の育成に努める。	・制作途中の作品や各国の美術作品を都度紹介することによって鑑賞の機会を増やす。そのことにより造形的なよさや美しさ、表現の意図に気付かせ、自分の見方や感じ方を広げさせる。 ・それぞれの児童が興味をもっていることを表現に生かすよう指導していく。	・わかりやすく取り組みやすい活動を提示し、具体的なゴールを明示して学習に取り組ませる。 ・それぞれの児童が興味をもっていることを学習内容と結び付け、意欲を高める。

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立東糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・集会等を通して、運動をすることの大切さを伝えたり、休み時間の外遊びを推奨したりすることにより、自主的に運動する児童が増えた。また、体育の学習の中では ICT 機器を活用する機会を増やしたことで動きのコツを見付けやすくなり、児童自身が具体的に動きを振り返ったりするなど、児童の学びをより深めることができた。

(2) 課題

- ・体育学習を通して、体を動かすことの楽しさや喜びを味わうことができている児童が増えつつあるが、児童の技能面（能力が高い、低い）においての二極化が目立つ状況が継続したままである。
- ・児童それぞれの興味関心、キャリア形成の方向性などに応じて児童が主体的に学習を行っていきけるように個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る必要がある。

2 観点別分析

(1) 体力テスト結果の分析

専門業者による分析待ち

(2) 観点別の分析

①低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知ることができている。 ・運動遊びに取り組む時間を十分確保したことで、基本的な動きが身に付いている。 ・体を腕全体で支える力、水中での動き、ゲームの中でボールを持たない動きが身に付いていない。	・走・跳の運動遊びでは、場を選んだり遊び方を工夫したりすることができている。 ・学習の振り返りの際に、感じたことを言葉で表現することができている。	・運動遊びにすすんで取り組むことができている。 ・きまりを守り、仲良く運動することができる児童が多い。 ・勝敗を受け入れられない児童もいる。 ・場や用具の安全に気を付けて準備や片付けをする経験が乏しい。

②中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方及び健康で安全な生活や体の発育・発達について、概ね理解している。 ・個人で行う基本的な動きや技能は概ね身に付いている。 ・体を腕全体で支える力、水中での動き、ボールを持たないときの動きが身に付いていない。	・自己の運動や身近な生活における健康の課題を見付けることができている。 ・走・跳・投の運動では、自分の課題に合わせて、場や活動を選択することができる児童は約半数である。	・運動にすすんで取り組むことが概ねできている。 ・きまりを守り、仲良く運動することができる児童が多い。 ・勝敗を受け入れられない児童もいる。 ・友達の考えを認めようとしている。 ・場や用具の安全に気を付けて準備や片付けをする経験が乏しい。

③高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方及び心の健康やけがの防止、病気の予防について、概ね理解している。 ・個人で行う基本的な技能及び健康で安全な生活を営むための技能は概ね身に付いている。 ・体を支持する力、各種泳法、ボールを持たないときの動きが身に付いていない。	・自己や他者の運動や身近な生活における健康の課題を見付けることが概ねできている。 ・自己やチームの課題を解決するための方法を工夫することができる児童は約半数である。	・運動に積極的に取り組むことが概ねできている。 ・約束を守り、助け合って運動することができる児童が多い。 ・勝敗を受け入れられない児童もいる。 ・仲間の考えや取り組みを認めようとしている。 ・場や用具の安全に気を付けて準備や片付けをすることができている。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・鬼遊びや遊具・用具を使った運動遊びに取り組む機会を多く設け、「遊び」を通して様々な動きに親しむ中で、基本的な動きが身に付くようにする。 ・単元を問わず、準備運動も兼ね、鬼遊びや短縄を使った運動遊び、体ほぐしの運動遊びを継続して取り組み、持久力や巧みな動きを身に付けたり、体を動かす心地よさを味わわせたりする。 ・ICT機器や教師、友達を通して、手本となる動きや低学年の実態に応じた動きのコツを伝える。	・学習課題に沿ってやりたいことを自己決定する活動を取り入れる。 ・単元によっては『学習カード』を活用しながら、振り返る学び方を体育科の中でも培っていく。 ・よい動き方に気付いたり、伝えたりする経験を積ませる。 ・自己だけでなく、友達の動きのよさを見付けさせ、伝える活動を取り入れる。 ・活動を振り返ることができる『学習カード』を活用する。○を付けるだけのものや一言で振り返ることのできるカード等を活用する。	・安全に留意し、きまりを守りながら、運動遊びにすすんで取り組めるような声掛けや場の設定をしていく。 ・場の準備・片付けを自分たちで安全に行えるように指導する。 ・運動を楽しむ姿勢や一生懸命に取り組んでいる姿を積極的に褒め、全体の意欲向上につなげるようにする。 ・運動のコツを掴ませ、できる喜びを味わわせ、運動の楽しさを実感させていく。 ・全員が活躍できる場や規則を設定する。 ・休み時間でも授業で行った運動に取り組めるように『学習カード』等を活用する。 ・休み時間には、教師もすすんで一緒に校庭に出て遊び、共に運動の楽しさを味わい、伝えるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「体づくり運動」を要に多様な動きの獲得や動きの組み合わせができるようにする。 ・単元を問わず、準備運動も兼ね、鬼遊びや短縄を使った運動、体ほぐしの運動を継続して取り組み、持久力や巧みな動きを身に付けたり、体を動かす心地よさを味わわせたりする。 ・ICT機器や教師、友達を通して、手本となる動きや中学年の実態に応じた動きのコツを伝える。 ・授業の始めに、主運動につながる運動を取り入れる。 ・保健学習や食育とも連携し、健康の保持増進にも目を向けさせ、規則正しい生活と意欲的に運動をする態度を育てる。	・学習課題に沿ってやりたいことを自己決定する活動を取り入れる。 ・活動を振り返ることができる『学習カード』を活用する。○を付けるだけのものや一言で振り返ることのできるカード等を活用する。 ・自己の課題に合った場や練習方法を選択する活動を取り入れる。 ・自己だけでなく、チームやグループ活動の中の課題を見付け、課題を解決するための方法や活動を工夫しながら考えたり、互いの動きの良さについて見付け、考えたことを伝えたりする活動を取り入れる。	・安全に留意し、きまりを守りながら、運動にすすんで取り組めるような声掛けをする。 ・場の準備・片付けを自分たちで安全に行えるように指導する。 ・運動に楽しむ姿勢や一生懸命に取り組んでいる姿を積極的に褒め、全体の意欲向上につなげるようにする。 ・運動の仕方や技能のコツを掴ませ、できる喜びを味わわせ、運動の楽しさを実感させていく。 ・全員が活躍できる場や規則を設定する。 ・休み時間でも授業で行った運動に取り組めるように学習カード等を活用する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・単元を問わず、準備運動も兼ね、持久走や短縄を使った運動、体ほぐしの運動に継続して取り組み、持久力や巧みな動きを身に付けたり、体を動かす心地よさを味わわせたりする。 ・ICT機器や教師、友達を通して、運動技術の重点を押さえる。 ・易しい場や練習方法を示し、課題解決方法を理解・活用し技能を高められるようにする。 ・授業の始めに、主運動につながる運動を取り入れる。 ・保健学習や食育とも連携し、健康の保持増進にも目を向けさせ、規則正しい生活と意欲的に運動をする態度を育てる。	・学習課題を理解し、自己や他者の能力を分析したり解決方法を自己決定したりする活動を取り入れる。(ICT機器の活用) ・活動を振り返ることができる『学習カード』を活用する。○を付けるだけのものや一言で振り返ることのできるカード等を活用する。 ・運動中の状況判断が求められる活動を設定し、判断力を伸ばす。 ・健康の保持増進に向けた解決策を調べ、プレゼンテーションする場面を設定する。	・安全に留意し、約束を守りながら、運動にすすんで取り組めるような声掛けをする。 ・運動に楽しむ姿勢や一生懸命に取り組んでいる姿を積極的に褒め全体の意欲向上につなげるようにする。 ・運動のコツを掴ませ、運動の楽しさを味わわせる。 ・仲間の考えを認め、協働して学ぶ姿を価値づける。 ・全員に役割を与え、「する・見る・支える・知る」体育の見方・考え方に触れられるようにする。 ・休み時間でも授業で行った運動に取り組めるように学習カード等を活用する。